

氏名	高橋雅也
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3871号
学位授与の日付	平成15年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Traumatic cervical cord injury at C3-4 without radiographic abnormalities: correlation of magnetic resonance findings with clinical features and outcome (第3-4頸椎椎間板高位における非骨傷性頸髄損傷の検討: MRI所見と臨床症状の特徴との関係)
論文審査委員	教授 平木 祥夫 教授 光嶋 勲 教授 伊達 勲

#### 学位論文内容の要旨

第3-4頸椎椎間板高位における非骨傷性頸髄損傷の予後を正確に予測し、厳密な治療計画を得る目的でMRIによる損傷頸髄の経時的評価、及びその臨床症状との対比検討を行った。

国際パラプレジア医学会の麻痺分類でgrade C以上の麻痺を呈したC3-4高位非骨傷性頸髄損傷43症例に対し受傷直後から経時的にMRIを撮像し、損傷頸髄の信号変化を追跡調査した。また麻痺の程度を評価し、画像所見と臨床経過の関連についても検討した。

損傷頸髄のMRIは3つのパターンに分類でき、麻痺の程度及び予後との相関性が示唆された。また麻痺の予後判断には受傷後3週間前後でのT2強調像での高信号域、同部位のT1強調像での低信号域の評価が有用であると考えられた。

本損傷の臨床上的特徴として麻痺の重篤なものでは呼吸機能障害が強いこと、不全麻痺例ではADL上手指機能障害が問題となるものが多いことが挙げられた。

本研究では上記事実を踏まえ、非骨傷性頸髄損傷に対して予後を経時的なMRIにより予測でき、医学的合理性をもってその治療方針を決定できることを示した。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、国際パラプレジア医学会の麻痺分類でgrade C以上の麻痺を呈した第3-4頸椎椎間板高位における非骨傷性頸髄損傷43例について、受傷直後から経時的にMRIを撮像して損傷頸髄の信号変化を追跡調査し、その画像所見と臨床症状との対比検討を行った臨床的研究である。その結果、損傷頸髄のMRIは3つのパターンに分類でき、麻痺の程度及び予後との相関性が示唆され、麻痺の予後判断には受傷後3週間前後でのT2強調像での高信号域、同部位のT1強調像での低信号域の評価が有用であること、また本損傷の臨床上的特徴として麻痺の重篤なものでは呼吸機能障害が強く、不全麻痺例では手指機能障害が問題となるものが多いことを明らかにしている。これらは、本症の治療方針を決定する上で重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。